

目次: 1 ~ 5P「特集」 6P「女子会リレーエッセイ」 7P「ブラ小金井が始まった!」 8P「小金井稲門会ニュース」

# 特集

## 続《戦後70年 それぞれの時代を語る》

戦後日本が「古希」を迎える今夏、様々な世代の《それぞれの時代》を、前号に続き振り返ってみることにしました。今回は1970年代以降の卒業生が中心です。

そして巻頭には、戦時の少年時代と1945年8月2日の八王子大空襲を生き延びた経験を伝える《語り部》 としての取り組みを続けている横田満男さん(1955年法学部卒)にご登場頂きました。

「警戒警報はウウーンとサイレンが1分間続きます。空襲警報はそれがウーウーウーと断続的に鳴るのです。今でも小金井でサイレンが鳴ると、びくりとします」

横田さんの言葉に、集まった市民たちが真剣な 面持ちで耳を傾けている。

具体的なデータを駆使して、自分の体験を織り 交ぜながら、説明する。時に、戦意高揚のために つくられた歌を朗々とした声で歌うことも。

昭和5年11月生まれ。八王子大空襲の時には14歳だった。空襲を予告するビラがまかれ、家族で対応を話し合った。長男の横田さんは、一番下の5歳の妹を自転車の荷台に乗せ、甲州街道を東へ逃げる役目だった。

未明の空襲は、夜を煌々と照らす照明弾から始まり、ザザーという音をたてて焼夷弾が降ってくる。自転車を走らせ、東へ向かっていると、その先でもザザーという音が。

とっさに自転車を放り出し、妹の手を引き、浅 川の河原へ逃げた。「あのまま東へ向かっていた ら、おそらく死んでいたでしょう」。

その夜、八王子市を180機のB29が襲い、67万個の焼夷弾を投下した。396人の市民が死亡。横田さんの隣人も防空壕の中で亡くなっていた。

\*

横田さんが、戦争体験を語り継ぐ取り組みを始めたのは昨年から。ある市民団体からの依頼を受



(6月28日小金井平和ネット主催の憲法カフェで)

けたのがきっかけだった。

「空襲を含めた戦争体験者はまだ多くいると思いますが、《語り部》が多いわけではありません。 僕は84歳ですが、幸いまだ元気です。残り少ない時間の中で今のうち、できるだけ多くの人に語り、 戦争体験を伝えたいと思っています」

早稲田大学に入学したのは1950年。すぐに朝鮮戦争という新しい戦争が始まった。レッドパージによって、ある教授が教壇から追われようとした時、「教授を守ろう」と、反レッドパージ闘争が始まり、横田さんもそれに参加した。

\*

戦争は何を変え、何を奪っていくのか――。 横田さんの瞳には、その答えが鮮明に焼きつい ている。今、《語り部》として力を注ぐのは、そ れを絶対に再現させてはならないという強い思い があるからに違いない。 (佐藤和雄・記)

## 70年代

### 今中京平さん(1970年入学・政経)

#### 入学当時の日々と演劇との出会い



ある日、6号館の屋上階にあった芝居の稽古場を 訪ねました。アングラ劇の学生版で、団員たちも アルバイトが忙しく練習もままなりません。

どうせなら皆で一緒に働いて資金も稼ごうと、 劇団で飲食店を買い取り、私が責任者になりました。

## 「市井の学」としての飲み屋経営

大変でもあり、エキサイティングな日々でもありました。酒の飲み方も知らない若者が、突然、焼き鳥店の主人なのですから。

毎日の仕入や家賃、権利金の返済もあります。 かっこよく言えば「市井の学」を実践していた のかもしれません。

### 学校への復帰計画と別れ

3度目の新学期を前にして店の経営権を知人に譲り、復学への道を模索し始めました。将来への危機感もあったのだと思います。

その年の11月、文学部の1学生が、ある政治党派からリンチ殺害されるという悲惨な事件が起きました。

再び学内は騒然となり、気付くとまたその渦中に。 学内に平穏が戻り始めた頃には、学校には戻ら ないと決めていたような気がします。

その頃、父親の戦友と名乗る大先輩から連絡をいただき「いつでも相談に乗るから」と1枚の名刺を置いていかれました。連絡はしませんでしたが、今でもその名刺は大切にしています。

これでよかったのか自問することもありますが、 後悔だけはしないように生きてきたつもりです。 (聞き手・福岡貴子)

### 眞鍋松郎さん(1973年卒・法)

#### 超高層ホテルの内装工事

学生運動が盛んなころに入学したので、大学は 勉強できる環境じゃなかったですね。

もっぱらバイトや英語学校に通って英会話の 勉強だけは続けていました。

いろんなバイトをしましたが、一番印象に残っているのが、開業前の京王プラザホテルの結婚式 場の内装工事です。

当時、あのあたりは淀川浄水場跡地の再開発地帯で、一面だだっ広い原っぱでした。そこにポツンと日本初の超高層47階建てホテルが建ったわけですから、その光景は衝撃的でしたね。

## 入社3ヶ月でナイジェリアに赴任

バイト代は、旅行と英語学校の費用にしていま した。入学するまで東京より北に行ったことがな



かったので、学生時代に 日本各地を周ってみたい と思っていたんです。

最初に行ったのが、北 海道。ここで思わぬハプ ニングに遇いました。

釧路で、予約したはず のユースホステルに手違 いで泊まれなかった。

駅のベンチで野宿しようとしたら、駅員さんが 声をかけてくれて、貨車の中に泊まることができ ました。

英語学校に通っていたのは、卒業後は海外で働きたいと考えていたからです。

運よく石油会社の海外部門に採用され、入社3ヶ月でナイジェリア勤務になりました。

まだ会社の「か」の字も、海外の「か」の字も わからないままの赴任でした。

当時は11<sup>ド</sup>ル360円の時代で、海外はもちろんナイジェリアに行く人はほとんどいなかったですね。 多くの人に見送られて羽田空港を旅立ちましたが、今では考えられないような赴任風景でした。

学生時代に身に付けたビジネス英語のおかげで、 現地で英会話に不自由することはありませんでし たが、カルチャーショックを受けることは多々あ りましたね。

(聞き手・福岡貴子)

## 70年代から80年代へ

### 山本俊明さん(1980年卒・政経)

### 石油ショックの危機から早稲田へ



早稲田に入るきっかけ となったのは、70年代前 半に起きたニクソンショ ックや第1次オイルショッ クです。

弁護士を目指していた のですが、「日本はどう なるのだろう」と、政治 ・経済への関心が強まり ました。岡山の田舎から

「東京へ出て勉強しよう」と決意したのです。

不幸なセクトの対立が終わり、多少の余韻が残っていたころです。政治の季節が終わった後に入学した「遅れてきた青年」でした。五木寛之さんの『青春の門』などを読んで早稲田に入っただけに、少しがっくりという感じもありました。

勉強では、看板教授の内田満先生の教養ゼミで、アメリカ政治学の大御所ハンチントンの論文をいきなり購読、「大学院レベルを教える」と言われ、学問することの一端に触れた気がしました。3年からの専門課程では、市民参加のフィールドワークで有名だった寄本勝美先生のゼミに。ジャーナリストになったのは先生の影響が大きいと思います。

#### ゼミナール連合を立ち上げた

思い出深いのは、政治経済学部で「ゼミナール連合」を立ち上げたことです。当時、政治経済学部ではセクト対立などで自治会が消滅していました。 ゼミの先輩からは「ぜひ自治会を再建してくれ」という申し送りがずっとあったんですね。

元気の良いゼミの仲間たちとも交流があったので、「まずはゼミの連合体をつくろう」と、10人ぐらいで始めたのです。ゼミ間の親睦を深めることと、教育水準を引き上げることに目的がありました。

東大の篠原一教授らを招き何度か講演会をやりました。僕はゼミナール連合の初代代表になったので、セクトから目を付けられ、2週間ぐらい大学にいけない時期もありましたが、仲間が護ってくれました。ワセダの心意気を感じました。

(聞き手・佐藤和雄)

### 坂本光正さん(1981年卒・法)

#### 『青春の門』をくぐる

早稲田大学に入るきっかけは、五木寛之の『青春の門』を読んだことです。

僕は、福岡県の筑豊(炭鉱町)の出身です。当時は東京の大学と言えば、東大や早慶など数校しか知りませんでしたね。

最初は司法試験を受けようと考えていましたが、 4年間、それに没頭しなければならない。そうな ると大学生活は真っ暗です。一年生の時に「こり ゃ無理だな」と悟り、アルバイトに力を注ぎまし た。



法学部は卒論がありませんし、試験は年1回。 試験前には一生懸命やり、 成績はまずまず。でも、 卒業後10年位は、単位を 落とし、卒業できない夢 でうなされてました。

第二外国語をフランス 語にしたのは、フランス 語だったらクラスに数人

は女性がいるだろうと考えたからです。

ずばり予想が的中。僕たちのクラスには3人女性がいました。うち1人は検事に任官し、先ごろ弁護士になりましたね。6、7年前からクラス会をやるようになり年2回、集まっています。

#### 海運の魅力に惹かれる

ゼミでは国際法の島田征夫先生と英書研究の加藤哲夫先生に学びました。4年生になって海運会社に就職しようと考え始めたので、海商法の中村真澄先生のゼミの聴講生にもなりました。

海運会社で働こうと思ったのは、司馬遼太郎の 『竜馬がゆく』に魅了されたからです。海運の重 要性と、自由な雰囲気にも惹かれました。

印象に残っていることと言えば、1980年12月の ジョン・レノンのニューヨークでの射殺。ショッ クでした。

それと、ポール・マッカートニーが好きで、その年1月の来日公演のチケットを買って待っていたら、大麻所持で成田空港で逮捕。国外退去で幻のコンサートに。これも忘れられません。

(聞き手・佐藤和雄)

## 80年代

## 冨士森みつさん(1983年卒・法)

#### 早慶戦と歌舞伎町

早稲田でいちばん印象的な出来事は、早慶戦です。それともっと強く覚えているのは、そのあとの歌舞伎町での祝賀会。余談ですが卒業後何十年もたった年次稲門会で、その早慶戦の主役である野球部主将や応援部リーダーと友人となり、稲門会ならではのすごさを感じました。

あと旅行もユースホステルなどを使ってよく行きました。

夏の北海道とか東北の岩手方面などとても印象 に残り、今の旅行好きにつながっています。

### 地方公務員から国家公務員へ



私の父は公務員でした。 それが法学部を目指した ことを含め法律的な事を 身近に感じていたいとい う思いにつながり、私も 公務員になったのかもし れません。

私は同じ公務員でもじつは転職していまして、 最初は地方公務員(警視

庁の一般職)でした。でも次第に、より幅の広い 業務を行っているところに勤めたくなり国家公務 員の試験を受け直しました。

やめてからの受験だったわけで、もし落ちたらなんの保障もなかったのです。周りの人からはほんとうによくやったよなといわれました。

#### ドイツ語の先生とはいまでも

私は初めから公務員試験をめざしていたわけではありません。そういう意味では特別な勉強はしていません。バドミントン同好会の活動に積極的に参加するなか、講義だけは真面目にうけるようにしていました。現総長の鎌田先生の講義も印象的です。

担任でいらしたドイツ語の先生とは卒業後も年 賀状のやり取りが続き、ありがたいことに今でも お付き合いをさせていただいています。

(聞き手・金子正和)

### 宮浦孝明さん(1984年卒・文)

## 初めての衆参ダブル選挙



私は雄弁会に所属していました。その関係から選挙がらみのことは印象に残っています。

知り合いで選挙に出る 人も、結構いましたから ね。初めての衆参ダブル 選挙が80年の6月、参議 院の初の比例代表選挙が 83年の6月でした。

ただ政治的には比較的安定していて、あまり大きな出来事はなかったですね。

## 書記長で解雇撤回闘争

アルバイトでわりと大きな塾の教師をやっていましたが、そのうち教師の間からいろいろ不満がでてきましてね。とうとう労働組合を作ろうということになりました。交渉ごとはわりと得意だったし面白かったので書記長も引き受けてしまいました。会社からはにらまれましたよ。

しばらくは強面な書記長をやっていたのですが、会社から組合員の約半数に解雇通告が出されました。当然、私は解雇されるメンバーに入っています。

そこからは解雇撤回闘争になりました。途中、 一度は勝つのですが裁判になってしまい、結局は 負けてしまいました。最後はみんなバラバラにな ってしまい労働運動もこんなものかと痛感しまし たね。

結局留年して1年遅れになりましたが卒業はしました。文学部では卒業式の日、卒論担当の先生のところに集まって乾杯をしたあと、卒論の返却をするのに併せて就職先の発表をするのです。

最初の失業者みたいなことをいわれて帰り道がさびしかったことを覚えています。

#### 行政書士で開業へ

労働運動のつながりでどこかへ入ることもでき たのですが就職する気をなくしていました。

卒業して数年のことはあまり言いたくないです ね。留年したとき家にこもって法律を勉強しまし た。それが今、仕事にしている行政書士につなが ったのでしょうか。 (聞き手・金子正和)

## 80年代から90年代

### 高木聡さん(1990年卒・商)

#### ラグビー観戦に熱中



高校(学院)時代からスポーツ観戦が好きで、とりわけラグビー観戦に熱中していました。清宮監督 に見びば同じ学年。87年に留じされていまで早稲度の日本選手権優勝を飾ってとは今も心に残っています。

観戦の2日前から国立競技場隣りの公園で野宿して観た早明戦もありました。雪の中、結果は敗退。ほろ苦い思い出です。

勉強もそれなりにしましたが、政治学の試験が わからなかったので「そのことはさておき、なぜ 早稲田がラグビーで日本一になったか」を書いて、 優をもらったこともありました(笑)。

もともと運動するのが好きで、テニス、スキーに熱中。最近も大阪・京都・東京・北海道・神戸・富士山・横浜のフルマラソンをここ2シーズンで完走しました。スポーツは、経営に必要な計画性といった面で自身の仕事に役立っています。

### 大先輩と父の勧めで、銀行へ

学生時代は、バブル期のただなか。一流企業に 就職できる選択肢はいくらでもあった時代でした が、節目での出会いが人生に影響したと思います。

就職にあたり、ディーリングに興味があったので、損保など迷いましたが、父が信頼する早稲田の大先輩がある都市銀行に勤務されており、強い勧めもあり入行しました。

将来の起業や事業を継ぐ際に役立ち、金融機関の視点で企業を見られることが魅力でした。

融資や経営企画など担当し10年勤めた後、亡くなった父の会社を兄が支える姿を間近に見て、戻る決意をしました。現在は、(株)タカキホームで代表として経営に携わっています。

(聞き手・遠藤圭司)

#### 戸田智彦さん(1994年卒・法)

#### 祖父も父も早稲田出身



私は祖父と父が早稲田 出身(学院)だったため、 幼少時から早稲田志望で した。

高校(学院)から7年間にわたり早稲田にお世話になりました。

中学時代、事なかれ主 義で生徒からの話をまと もに聴きもしない教師た ちの姿をみて、自分はそ

うはなるまい、筋を通せる人間になろう、と思いながら受験勉強をして、無事に学院に入学することができました。

高校時代はラグビー漬けで、そこで培った気力 ・体力が現在の自分の基礎になっています。

高校3年時に、弁護士志望の友人などの影響で法 曹を志すようになりました。

### 都心の法律事務所から立川へ

大学3年の夏に初めて司法試験の山場である論文 試験を受けた時に、冷房の効かない会場で、氷入 りのバケツを持ち込む人などを目の当たりにし、 壮絶な世界に足を踏み入れたと実感しました。

一度は弁護士になることを断念して三鷹市役所 に勤務しましたが、在職中の28歳にしてようやく 司法試験に合格しました。

企業法務・知的財産を扱う都心の事務所で働き ながら経験を積んだ後、将来的には地元である多 摩地域で仕事をしたいと考えていました。

偶然、司法研修所の同期・同クラスで仲の良かった弁護士が10年前から立川駅北口にて立川北法 律事務所を開いていました。

2013年6月にこの事務所に移り、今日に至りました。

人生の節目、節目に恩師と友人に支えていただきながら、今を歩んでいる――。 そう実感しています。

(聞き手・遠藤圭司)

# 女子会リレーエッセイ

## 戦後70年を振り返って



加藤 和子 (1963年卒·教育)

1940年、東京は中野に生まれ、早大には19 59年教育学部に入学しました。

父の影響で卒業後は4年ほど教職に就きました。その父も1901年生まれ、早稲田中・高等学校(旧制早中)に勤務していました。

私の育った野方の町は、住宅地で早稲田の 教授が多く居を構えていらっしゃいました。

戦争が始まると、父は疎開荷物を小金井の 叔父に託し、中野の我が家の防空壕で頑張り ました。

あのジメッとした暗い穴の中は大変怖かったのですが、ある日、1匹の迷い猫が入りこみ、暗闇の中、私を温め、キラリと光る眼に励まされました。猫とはそれ以来の友です。



1945年8月、終戦。1947年小学校へ入学しました。父は大隈講堂で子ども向けの催しがあると連れて行ってくれました。焼け跡の残る大学近辺でした。

防空壕から出た子どもの私は、高い高い立派な時計台、そこで中学生の演じるピーターパンは、まさに夢の国でした。今ではめったに起きない停電も、この頃は度々でしたので、陽が長く、外で遊べる夏が好きでした。

終戦を迎え、食糧難になりましたが、私は 小金井の叔父が耕す畑に守られ成長しました。 幸いなことに、西武線沿線は戦災をまぬが れたので、昭和30年代は、部屋数の余裕があ る家では、学生に下宿を提供していました。 部屋代は、60年代、1畳千円で大方は4畳半。 机と本箱は先輩の置き土産でした。

朝晩、食事もともにし、お風呂ももらい湯 でした。銭湯も多かった時代でした。

自宅の電話の普及は十分ではありませんで したから、公衆電話を利用し、親元との連絡 には葉書や手紙でした。最初の夏休みは、 とても待ち遠しかったようです。



1959年は、前年の美智子様のご婚約、そして御成婚パレード=写真=があり、テレビが普及した年でもありました。一家に一台の時代でしたから、家族が一部屋に集まり、テレビを楽しみました。

家庭には自ずと、譲り合いの心も育ったわけです。下宿先の娘さんとのロマンス、結婚もあった時代でした。

卒業し就職で赴任した後も、地方から昔の 下宿先に小包が届くことも珍しいことではな く、面倒見の良い方々が縁談を取り持つ時代 でした。

この度、稲門会に縁談を取り持つお世話の 会ができましたことは、大変喜ばしいと思い ます。

戦災を経験した世代の私の希望は、若い方が「災害時を考える学習会」を立ち上げて、 小金井の地理的条件や生活に即した備えについて検討してみていただけないでしょうか。

土木・建築・電気系の専門知識を提供していただきたいと切望いたします。

また、将来を背負う子どもたちに手を貸していただきたいと思います。

# ブラコガネイ

## 「ブラ小金井」が始まった!



2015年7月5日(日曜)、西村会長をはじめ11 名の参加者で、第一回の「ブラ小金井」を開催しました。

小金井稲門会の活性化チームAで企画した もので、NHKの人気番組「ブラタモリ」に ならい、「ブラ小金井」と命名。武蔵野の面 影を残す小金井の歴史や地形を楽しむ街歩き です。

「小金井」の地名は「黄金井」、すなわち 「黄金に値する豊富な水が湧く」ことに由来 すると云われております。また、大岡昇平の 「武蔵野夫人」の舞台にもなった小金井の 「はけ」は、緑豊かな国分寺崖線と湧水に恵 まれ、趣のある坂道も沢山あります。

そこで第1回目の街歩きは、"緑と湧水と坂" をめぐるコースです。

#### ~道中記~

梅雨時のため天候が心配されたが、参加者 全員の日頃の行いが良いのか、或いは"晴れ 男"がいたのか、夜来の雨もあがり、予定通 り14時に西武線の新小金井駅をスタート。

新小金井駅は、「新」と名前がつくが、大正6年に開設された小金井で一番古い駅。西武線の切り通しを望む「いちご橋」を経て、ICU脇の急坂を下り、「二枚橋」へ。

ここから野川沿いのブラ歩き。右手には高さ約15mの「はけ」(国分寺崖線)が緑の森をなし、左手には鴨が遊ぶ野川が流れている。小金井の豊かな自然に改めて感動する。

曇り空ながら、新鮮な空気を思い切り吸って身も心もリフレッシュ。野川沿いは、緑の

季節も良いが、もみじの紅葉も素晴らしい等と語らいながら、「ムジナ坂」に。

"暗くなるとムジナに化かされる"との噂から「ムジナ坂」と呼ばれるが、坂の上には鬱蒼とした木々の緑が覆いかぶさり、名前の由来に納得する。この階段で記念撮影 (左の写真)。

鴨下製糸工場の跡地に建つケーヨーD2を経て、「はけの森美術館」に到着。

竹林の階段を下ると森の中に湧水の池が静かに佇む。美術館は休館中だが、中村研一画伯の旧邸にある「オーブン・ミトン カフェ」でケーキとダージリンティで、しばしリッチなティタイム。

ジブリ映画 「借りぐらしの アリエッティ」の 舞台『はけの小路』 を散策し、「小金井 神社」に到着。



古くから小金井 村の鎮守であり、稲門会のますますの発展を 祈って皆でお参り。

続いて、西念寺にある「小金井小次郎の墓」 を詣でる。幕末維新の侠客で博打の罪で三宅



島に流されたが「小次郎井戸」を 造り島民に尽く し、明治35年に 追悼碑が建つ。

その次は「金蔵院」。 明治6年には最初 の公立小学校が

置かれ、大正11年までは小金井村役場として 使われた由緒ある寺だ。稲門会会員の渋谷さ んの祖父(小金井村 村長)のお墓もあった。

最後に「車屋の坂」を登って17時に福祉会館にゴール。「8,550歩・約6km」の第1回「ブラ小金井」が無事終了した。

その後、福祉会館で「小金井史談会・展示会」を見学し、居酒屋で楽しい打上げ会。

冷えたビールが何とも旨い! 次回を楽しみ にしつつ、19時に解散しました。

【参加者:梅根、坂本、篠崎、西村、森実、山中、河村、金子、桂、今中、長坂】 (長坂 義明·記)

# 小金井稲門会ニュース

WASEDA UNIV. ALUMNI 小金井稲門会 KOGANEI TOMONKAI

# 鈴庄一喜さん 大学の常任理事に 財務を担当

小金井稲門会の会員、鈴庄一喜さんが2015年6月1日付で早稲田大学常任理事(財務)に 就任された。

鈴庄さんは、1977年法学部の卒業。キリンホールディングス株式会社常勤監査役、協和 発酵キリン株式会社社外監査役などを歴任。小金井稲門会では早稲田サロンなどで活躍 してきた。ザ紺碧に次のようなメッセージを送っていただいた。

「小金井稲門会の皆様には日頃から本当にお世話になっております。このたびご縁があり母校の経営について財務面からお手伝い申し上げることとなりました。少子高齢化の影響や教育研究環境の整備等さまざまな課題はございますが、世界に向けて大きく飛躍する母校の発展のため、ご恩返しのつもりで取り組む所存でございます。変わらぬご支援とご指導を何卒宜しくお願い申し上げます」



## 9月12日(土)の早稲田サロンでお話を聞きます

鈴庄さんから9月12日(土)の早稲田サロンにて「現在の早稲田大学について」という内容でお話を聞く機会を予定しています。午後6時から。会場はいつもの武蔵小金井駅北口の居酒屋「一番館」です。

## ~西村正臣会長から~

当会会員の鈴庄一喜さんが6月1日付けで大学の 財務担当常任理事に就任されました。4月1日に理 事に就任されたばかりでした。

この結果大学の経営陣は、総長の下に副総長2名、常任理事2名、理事13名。財務担当の常任理事は「財務大臣」として大変重要な役目となります。7月4日に大隈講堂で商議員会があり、全国の商議員を前に大学の財務状況を説明されましたが、

株主総会での説明のようでなかなかのものでした。

あとで鈴庄さんと話したら、あやうく株主の皆様と言いそうになったと冗談を言っていました。

そのあとで開催された懇親会でも、鈴庄さんの 明るくざっくばらんな人柄に各稲門会長から人気 が集まっていました。

## ◆新しい会員のみなさん 《 》はご趣味、順不同

平井伸夫さん (1974年卒・政経) 小金井市本町4-10-7 《読書とお酒》

冨士森みつさん (1983年卒・法) 小金井市貫井北町5-29-11 《茶道、レク、旅行、バドミントン》

吉田義尚さん (1960年卒・政経) 小金井市本町5-15-8-901 《ゴルフと囲碁》

中野 徹さん (1972年卒・理工) 小金井市梶野町4-21-17 《音楽》

新川智洋さん (1997年卒・文) 小金井市中町3-15-3-201 《合気道と読書》

#### ◆編集部から◆

戦後70年の節目を迎える今夏、会員のみなさまはどのような感慨をお持ちでしょうか。戦争と戦時体験 が遠ざかる今だからこそ、「伝える」取り組みがなお一段と重い意味を持つように感じます。(佐)

\*題字は國分ひろみさん。デザインと編集協力はサーズデイデザイン(電話042-301-4555)